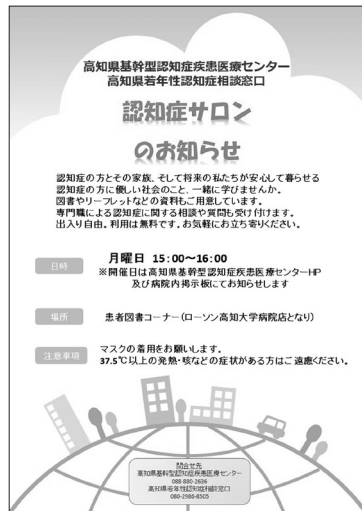


認知症の方とその家族が安心して地域で繋がるために ～リレーポイントとしての診断後支援の取組み～

中司 みずほ ●高知大学 医学部附属病院 高知県基幹型認知症疾患医療センター 相談員

池田 由美 ●高知県 若年性認知症相談窓口 若年性認知症支援コーディネーター



リレーポイントとなる「認知症サロン」のポスター

1. 背景と目的

認知症の診断を受けた後、本人とその家族が社会から孤立し、地域とのつながりが絶たれてしまうケースが多い。この認知症初期の「空白の期間」を解消することが、診断後支援の重要な課題となっている。高知県基幹型認知症疾患医療センターでも、診断後支援の一環として南国市地域包括支援センターと協働し、認知症の方とその家族が地域とつながる場をつくり、月に一度開催するこの地域の集いに診断直後の方とその家族を紹介している。

しかし、現実には紹介してもなかなか参加できず、地域の相談先にもつながらないケースが多い。

その理由としては、認知症の症状に起因する物忘れや新しい環境への不安、認知症への抵抗感などが原因になっていると思われる。そこで、診断後の方とその家族が安心して地域とつながることができるリレーポイントになる場や支援が必要だと考えた。

2. 取組みの方法

認知症の方と地域をつなぐ場・人のことをこの取組みではリレーポイントと呼ぶ。当認知症疾患医療センターがリレーポイントとなり、地域包括支援センターの職員やピアサポーターと共に診断直後の認知症の方とその家族の不安を受け止める支援を行う。また認知症の方、専門職、地域住民が集まり、認知症のことを学び、認知症の方にとって優しい社会とは何かを共に考える。

具体的には、診断後の方とその家族にリレーポイントとなる院内の認知症サロンを紹介する。そこに協働者である地域包括支援センターの職員が一緒に参加し、認知症の方やその家族がスムーズに地域の相談窓口とつながる仕組みをつくる。また各種リーフレットや認知症関連の図書等の資料を紹介し、正しい知識や必要な情報が得られるようにする。さらに地域に向けては講演会・ワークショップ(認知症サポーター養成講座等)を企画し、参加者には継続して本取組みに参加できるよう働きかけを行う。

3. 期待される成果

認知症の方とその家族にとっては、診断後から地域包括支援センターやピアサポーターが関わることで、早い段階で地域の相談先につながる事ができ、社会からの孤立を防ぐことができる。

地域へ開いた認知症サポーター養成講座や講演会を企画し、認知症バリアフリーの普及啓発に努めるとともに学びを实践する場として本取組みを活用し、地域住民と認知症の方、専門職が共に社会参加活動を推進する担い手となる。